

平成28年度 四ツ葉園事業報告

1 全般的事項

利用者一人ひとりの長所に焦点を当て、ライフステージに見合った支援を行った。また、安全で快適な生活環境の中で暮らしを営むことができるように、環境改善の意識を持ち、向上に努めた。

2 各事業実施状況

(1) 施設入所支援

① 利用者支援

- ・一人ひとりの生活の質の向上や支援員との信頼関係をさらに構築し安心して生活できるよう支援を行った。

② 安全・安心な暮らし

- ・土砂災害を想定した避難訓練を行い、利用者の方の安全な誘導にあたった。また、不審者対策として防犯カメラを増設、内部で刺股講習を行った。
- ・ヒヤリハット事案を丁寧に考察、共有に努め、職員全体で改善防止に取り組んだ。その結果、事案によっては年間を通して大幅に改善された。

③ 潤いのある環境

- ・快適な生活環境を心がけ、家具の配置の見直し、香りや衛生面に配慮した。

(2) 生活介護

日中活動

① 作業グループ

- ・活動内容を見直し、生活の張りを実感できる活動を目標に支援を行った。
- ・しいたけの原木栽培、ハーブ栽培を試行的、段階的に導入、活動に広がりを持つことができ、屋外活動が活発に行えた。
- ・屋外に香りや彩りを感じられる環境作りに取りかかり、樹木を植樹、屋外活動へ意欲的に参加、癒しを感じ取れるように環境整備に取り組んだ。

② 療育グループ

- ・利用者の方と職員が楽しみを共有し、意欲的で達成感がある活動に取り組んだ。
- ・身体障害者更生相談所の作業療法士の訪問相談を受け、高齢化や身体機能の変化に合わせて動作や自助具の助言を得た。
- ・音楽療法を行い集団で楽しめる雰囲気作りに努め、活発な活動を行った。

3 共通支援事項

(1) 健康管理・給食

- ・四ツ葉園に見合った感染症マニュアルを作成した。感染症予防として、手洗い、うがいを励行し、館内の消毒や換気をこまめに行った。罹患発生の際にはマニュアルに基づいて、また、状況に応じて速やかに適切な措置をとることができた。
- ・食事介助について、実際に職員が介助される実体験を通して検証し、介助される側

の気持ちを汲み取り、食事介助場面で快適に食事がとれるように取り組んだ。

(2) 地域交流

- ・納涼祭や園祭では、上市町社会福祉協議会を通してボランティア団体の協力を得た。また、実習生について積極的に活動参加を募り、利用者の方と交流を深めた。
- ・上市町のボランティアスクール（小中高生）では利用者、職員が継続して参加、また、地域や町のイベントに参加し、様々な団体・人とふれあい、交流を深めた。

(3) 職員研修

- ・高齢化、身体機能低下による身体介護の場面が増加、医療福祉専門学校の作業療法士を招き、身体の仕組みを学び、実際の場面を設定し適切な介助方法（基礎～応用）についてアドバイスを得た。

4 今後の課題

(1) 大規模改修

- ・改修期間の生活環境の中で、安全・安心の暮らしを継続すること。

(2) 日中活動支援

- ・日中活動が活発でやりがいや楽しさを感じられ、ライフステージに見合った活動の充実。

(3) 職員のスキルアップ

- ・職員一人ひとりが資質の向上について取り組み、支援者全体のスキルアップ。また、身体介護場面に応じた適切な介助方法の習得。

平成28年度 新川会グループホーム事業報告

1 ホームの利用状況

| | 定員 | 現員 | | 就労 | 就労継続 支援 A | 就労継続 支援 B | その他 | |
|---------|----|----|----|----|--------------|--------------|-----|-----------------|
| | | 男性 | 女性 | | | | | |
| つつみだにの家 | 10 | 5 | 5 | | | *10 | | *工房よつば |
| かわはらだの家 | 7 | 7 | | | 3 | *3 | *1 | *さつき苑 *富山型デイ |
| まえざわの家 | 7 | 4 | 2 | 3 | | *3 | | *雷鳥苑 |
| 計 | 24 | 23 | | 3 | 3 | 16 | 1 | |

2 支援の体制

3棟のグループホームを利用者の自立度（社会生活歴及び生活能力）に応じて2つのタイプに区分して支援を行ってきた。

- ① まえざわの家、かわはらだの家では、日常生活（休日を含む）は本人の選択（外出、昼食等）に委ねている。（休日勤務・平日休む利用者もいる）
- ② つつみだにの家では、休日の日中に生活支援員（バックアップ施設職員）を配置して、一定の指示や見守り（昼食、余暇活動）を行い、必要な支援を継続。
なお、まえざわの家、かわはらだの家の利用者のうち、3名は送迎により、つつみだにの家で支援を行った。（28年度末まで）

3 成果と課題

① 共同生活と自己管理

- ・掃除を他人任せにしたり、丁寧にしない等、非協力的な態度が見られ、協力して自主的に管理できるよう、当番や係を明示し責任をもって行えるよう促した。（誰かがでなくお互いで）
- ・居室の管理（整理・整頓・清潔等）
就労等の利用者は乱雑にしている傾向があり（仕事と通勤の疲れ）、適宜、促しが必要。

② 自己管理の利用者の休日・余暇及び金銭の管理

- ・各自それぞれ毎月の小遣い内で使用できるようになり、小遣い帳の残額等も合うようになっている。今後、休日の外出の機会やスポーツや趣味の時間等の充実が課題。
- ・コンビニやスーパーで昼食を購入、ショッピングセンターでの映画等行動の範囲が広まっている。携帯電話、パソコン・ソフトの手続き・支払い及び受診の支払い等に付き添っている。

③ つつみだにの家における休日・余暇の支援

- ・支援者間で会議を持ち、昼食のメニューの充実や個々の余暇に対する好みを把握する等、内容の充実に取り組んできた。
晴れた日は家庭菜園、除草、散策（運動公園、フライングディスクの練習）に誘う。

自由な時間、雨天時等は個人の趣味（読書、編み物）

計画的に外出の機会（イベント参加 会食・ショッピング等） *町営バスの利用

・夏季集団合宿を実施 立山少年自然の家で野外活動やキャンプファイヤー

4 管理・運営状況（3棟）

① 定期打合せ（3棟毎に月末開催）

利用者一人ひとりの自立の程度や状況について、世話人さんとの話し合いにより、一貫した関わりを続けるように努めた。また、より具体的に担当する係・当番表・やり方を明示するよう努めた。

② 健康と安全

・定期検診 法人内の就労継続支援Bの利用者は、通所の事業所で受診及び予防接種
その他は、就労先事業所で受診。予防接種は任意で受ける。

・風邪等の突発受診（世話人・事業所からの通知等を受け、受診～静養・昼食・見守り等）、病状や経過の把握等、対応に時間を費やすことがあった。

・ホームでの集団感染はなかった。

・避難訓練の実施

③ 給食・栄養管理

・業務日誌の献立について、栄養士から指導。

④ 家族との連携

・個別支援計画の提示等、保護者の皆さんとの会合を設定することができなかった。

（つつみだにの家は、工房よつばの保護者会に合わせて説明）

5 今後の課題

① 第2つつみだにの家の開始により、4棟の入居者の引っ越し再編

② 共同生活のルールと個人の生活の自己管理への指導（促し）、支援の見直し

③ 休日・余暇のメニューの充実

④ 短期入所居室の活用

⑤ 後期高齢者の処遇と介護保険サービスの調整

⑥ 保護者の懇談の機会を設ける

・個別支援計画の提示、運営状況の説明・協力依頼事項、金銭の管理状況等の周知を図る

平成28年度 新川会地域生活相談室 事業報告

1 全般的事項

地域で暮らしている障がい者（児）と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う支援を行った。

2 計画相談の現状について

- ① サービス等利用計画の作成の更新（新規）の時期（3月）に集中、そのため半年後に行うモニタリングの時期が9月に集中する。また、共働きの家庭での面談調査を時間外に行うことが多い。利用計画作成の事務処理を日中に効率よく行うよう努力している。

日中活動支援等、継続的に利用する障がい者には、利用計画の作成の時期を分散できないか要望している。

- ② 特別支援学校等の卒業生の就労継続支援B型事業所の利用制限（ダイレクト就B）があるため、観察実習の手続きが必要で、実習先の確保や期間の調整に苦慮している。
- ③ 重度の行動障害を伴う障がい者を受け入れてくれる事業所が少ない。受け入れてもらえてもスポット利用となり安定的なサービスが難しい。

新川会の日中活動支援事業所（日中一時支援を含む）への期待が大きい。

- ④ ③に関連して、短期入所等、複数の事業所のサービスを利用する場合、サービス等利用計画とそれぞれの事業所の個別支援計画との整合性を図るためのケア会議が必要だが、現状では課題が多い。

3 一般生活相談の現状

- ① 同じ家族の中で、障がい者と高齢者（介護保険）が同居するケースでは、制度間の違いがあり、サービスの調整が難しい。
- ② 行政から支給されているサービス利用にあたって、勝手にキャンセルや事業所の変更をする等、サービス事業者との狭間に立たされる案件があり、事業者と連携しながら対応しているが、納得が得られないことが多く対応が難しい。
- ③ 生活環境が不衛生等であったり、修理が必要な場合、費用の問題や緊急性等から、相談室で対応したこともある。（基本的には行政の対応を優先している）
- ④ 介護保険サービスへ移行できたケースがある。（待機を含む）

4 障害児相談

- ① 保育所入所前の子育てサークルに定期的に招かれて、ミュージック・ケアを実施（2カ所6回）
- ② 「星の子サークル」（立山町）、「のぞみの会」（上市町）の障がい児のサークル活動を支援。（習字、絵画、造形、トランポリン、クリスマス会、その他コラボによるイベント参加）

また、会員の要望で、宿泊（立山少年自然の家）による「親子療育キャンプ」（ピザづくり、キャンプファイヤー）を実施。子どもの集団活動と親たちの研修

5 その他

① 権利擁護

- ・成年後見制度を利用しているケースは、定期的に後見人に報告や意見を得て支援
- ・日常生活支援事業（社会福祉協議会）の利用を勧めても納得が得られないケースがある。

② 地域ネットワークの構築

- ・障害者地域自立支援協議会への参画

障害者自立支援協議会での各部会活動における処遇困難事例について、問題解決のためのケア会議を実施。事例を通して、地域で暮らしている障がい者とその家族の支援の充実のため、行政、関係機関及びサービス事業所とネットワークの構築に努めている。

- ・地域交流と社会啓発

地域の障がい者の交流活動やイベントに参画し、障がい者への理解を促進する啓発活動に協力している。

平成28年度 雷鳥苑事業報告

1 全般的事項

地域で生活する知的障がい者に、日中活動とふれあいの場を提供するとともに、一人ひとりが自立に向けて意欲と自信を育めるように支援を行った。

2 各事業の実施状況（経過）

（1）生活介護

① 創作活動等

- ・継続して貼り絵やプラバンに取り組んだ。新しくつまようじアートや塗り絵にも取り組んだ。
- ・リサイクル活動の少ない冬期間にミニ壺作りや流木アートに取り組んだ。

② 生産活動

- ・ペットボトルの分別（立山町受託）とダンボール組み立て（F社）。

③ 活動の評価等

- ・利用者と教材道具の配置を変更し、見やすく使いやすくなった。
- ・受託作業との兼ね合いもあるが、貼り絵の作業ペースが遅れ季節に合わないものを作成していた。
- ・プラバンは売り上げもあり、取り組んでいる利用者のやる気にもつながった。
- ・塗り絵は切り絵に加工し、つまようじアートとともに苑祭等で様々な人に見てもらった。

④今後の課題

- ・貼り絵は季節を先取りし、2か月に1枚を目標に行う。
- ・粘土作品にも取り組み、販売と作業の計画を立て、見通しを持って創作活動を行う。

（2）就労継続支援B型

① 受託作業

- ・野菜加工（A社）とパンフレット差し込み（H社）を受託納品した。
- ・立山町からの委託で環境センターでの施設外支援を行なった。

② 自主製品

- ・工芸 縮緬を使用した手芸品やマグネットを主に作成した。
- ・畑作 とうきと野菜（8種類）。新たにニンニクの栽培も行った。
- ・リサイクル 古紙回収販売とアルミ缶回収分別販売を行なった。

③ 活動の評価等

- ・野菜加工（ニンジン）は収入の主力となっているが台風や水害の影響を受け8月から受注量が減った。
- ・H社からの受託量が昨年度と比較すると半減した。
- ・畑作に注力できず、生育が良くなく売り上げにつながらなかった。
- ・中庭にゴーヤ等でグリーンカーテンを作った。利用者も責任を持って世話をしていた。

④ 今後の課題

- ・野菜加工は能力的に余裕がある。受注量の回復が見込めないのなら、他の野菜加工を行うか検討していかないといけない。
- ・ある程度固定されていた利用者職員の班編成を見直し、利用者の意欲向上やスムーズな日中活動が行えるように改善していく。
- ・防草シートや排水路を作り畑管理をしっかり行う。
- ・ニンニクの加工品を販売していく。

(3) 共通的内容

① 作品展示即売の企画

- ・ナビオ立山ショッピングセンター、北陸銀行立山支店、ハーティとやま立山町アンテナショップ「休んでかれや」、マルシェ

② 交流社会啓発活動

- ・上市警察署、立山町交通安全協会とともに秋の交通安全週間マスコット配布を前沢中央公園前道路にて行った。(9月)

③ 地域との関わり

- ・苑行事への参加

内容 各種団体、地域住民、ボランティアの参加と交流
行事名 夏祭り、苑祭、立山町料理飲食業組合交流会等

- ・地域行事への参加

内容 町、関係団体の事業やイベントに出品、ステージ発表で参加
行事名 立山まつり(7月)、健康と福祉を考える一日元気デー(10月)
立山町ボランティアまつり(11月)、特産まつり(11月)

- ・他施設、学校、団体との交歓

内容 社会参加と参加団体との交流(身体障害者協会、ボランティア等)
行事名 立山町社会参加支援事業
レクリエーション(7月)、写真教室(10月)、料理教室(3月)
立山町赤十字奉仕団主催の小学生との共同作業と七夕会(8月)
にかわ地区ふれあい育成スポーツ大会(9月)
下段地区社協主催の保育園児との交流会(12月)

④ 健康管理

- ・感染症の流行期前から、保護者に留意事項を配布し予防に努めた。

⑤ 安全な環境作り

- ・5月、消防署員立会いのもと避難訓練を実施し、水消火器による消火訓練も行った。

11月、土砂災害を想定した避難訓練を行った。

⑥ 家族との連携

- ・年3回個別懇談を行ない、本人保護者の思いを確認し、個別支援計画に反映させた。

平成28年度 さつき苑事業報告

1 全般的事項

利用者が日々仕事や訓練に楽しく元気に取り組み充実した1日を過ごし意欲と自信を培うよう支援を行った。

2 各事業の実施状況

(1) 生活介護

① 活動状況

創作的活動

- ・富山県をテーマに大きな(A3、6枚サイズ)貼り絵に 集団製作として取り組み、施設の行事で展示することができた。
- ・牛乳パックでの再生和紙作りに継続的に取り組んだ。

機能訓練

- ・アイロンビーズを使用して季節やテーマに合わせた作品作りを行った。
- ・木工品のストラップ付けなど細かな作業にも継続的に取り組むことができた。

生産活動

- ・アルミ缶のリサイクル活動を継続して行った。
- ・木工作品ではキーホルダーや鍋敷きなどを販売時期にあわせ、計画的に製作した。

② 活動の評価(成果)等

- ・木工作品では、地域からの注文を多くいただくことができた。意欲的に取り組み、作品の幅も広げることができた。鍋敷き等では計画的に製作していたが、売り切れになることも多く、生産が追い付かないこともあった。
- ・再生和紙では色付けや、大きさなど工夫をすることで商品として販売数も増えた。

③ 今後(次年度)の課題

- ・季節の商品等は販売時期や場所を考慮して計画的に製作していく必要がある。
- ・屋外での歩行や運動等を体重減少につながるように継続して行う。

(2) 就労継続支援B型

① 活動状況

受託作業

- ・T〇社(リテーナ揃え)の作業を軸に、R社(チューブ取り付け)やT社(バリ取り)との調整を図りながら作業の効率化を目指した。

自主製品

- ・畑作業でもとうき葉やラベンダーなどの栽培、収穫を継続的に行うことができた。
- ・ポップコーン用のトウモロコシの栽培、収穫を行った。

② 活動の評価

- ・よもぎの採集量が少なく、在庫不足となってしまった。
- ・とうき葉やラベンダーも収穫量を増やすことができたが、天候等で乾燥に時間がかかった。

- ・受託作業に時間を取られ、自主製品に取り組む時間が少なかった。

③ 今後（次年度）の課題

- ・とうきやラベンダー、よもぎ等は食品乾燥機と天日干しを有効的に活用し乾燥を行う。
- ・よもぎの在庫不足とならないよう計画的に採集を行うことが必要である。
- ・受託作業の効率化や数量の調整を図り、自主製品に取り組む時間を見直す。

(3) 共通領域と内容

① 身辺生活の自立と支援

- ・排泄では本人に合わせた促しを行なうことで、排泄の習慣づけを行った。
- ・活動前には意識的に身だしなみを整えられるよう働きかけをおこなった。

② 健康管理と健康指導

- ・食事量の少ない利用者には食事量の確認を行い、体調管理に努めた。
- ・日頃よりうがい、手洗いの励行に努め、感染が確認された場合には早期に保護者への周知を行い、感染拡大とならないよう努めた。

③ 食事・給食

- ・四ツ葉園より給食を運搬 27名が給食を利用
- ・嚥下やその日の体調に合わせてキザミ食の大きさを変更するなどの対応を行った。

④ 地域行事への参加

- ・地域の行事や公民館イベントに積極的に参加し、製品の販売やポップコーン等の販売を行った。(8月 9月 10月 11月)
- ・ふれあいウォーキング(7月)、ふれあいフェスティバル(11月)
(共催：上市町社会福祉協議会)に参加

⑤ 安全な環境づくり

- ・建物施設内外の点検を定期的に行い、また周辺環境整備に努めた。
- ・消防計画のもと通報、避難訓練を実施した(5月 11月)

⑥ 家族との連携

- ・保護者、また本人の思いを聴いて個別支援計画を作成し、また日頃の変化にも対応できるよう保護者とこまめに情報交換しながら支援に努めた。
- ・毎月の施設便り(さつき苑たより)を通して施設の情報提供に努めた。

⑦ サービスの質の向上

職員研修

富山県知的障害者福祉協会主催の各種研修会への参加

平成28年度 つつじ苑事業報告

1 全般的事項

利用者の障がいの状況や能力、興味に適した活動場面の提供に努め楽しく、充実した日々が過ごせるよう支援した。

2 各事業の実施状況

(1) 生活介護

① 活動状況

- | | |
|-------|--|
| 創作的活動 | ちぎり絵、絵画等の共同製作に取り組んだ。 |
| 生産活動 | 手芸品、機織り、再生和紙製品、梅干し作り等を行った。また畑作業では、ジャガイモ、サツマイモ等を栽培し収穫の喜びを味わうとともに、販売したり、苑祭で焼き芋にした。 |
| 機能訓練 | 公園内のウォーキング、各種運動機器等を使用し歩行、機能回復訓練等を行い、肥満予防、体力維持に努めた。 |

② 活動の成果

利用者に個々の能力、興味に応じた作業内容を提供することができた。

③ 今後の課題

冬場の運動量の確保、高齢者と若年者との運動量のメニューの充実
行動障害に対する支援体制

(2) 就労継続支援B型

① 活動状況

Y社(電子部品の組立)、T社(製品のバリ取り)、S社(タオルたたみ)などの委託作業と滑川市からの地下道清掃作業を中心に行った。また臨時の受注にも対応した。そして自主製品として機織りのコースター、入浴雑貨(しゅわしゅわバスタイム)、ヨモギ雑貨などを製作し販売した。

就労希望者に対しては、障害者職業センターでの訓練を実施し、ハローワークと連携を図り職場実習に繋げた。

② 活動の成果

作業場所の一部変更を行い、作業効率の向上を図った。
清掃の委託業務の受注を交渉したがうまくいかなかった。

③ 今後の課題

作業ごとに内容や工程をより分かり易くし、生産性を高める。
清掃等の委託業務の受注を増やす。

就労意欲のある利用者に対しては、関係機関と連携を図り、職業訓練を実施し一般就労へ繋げる。

(3) 共通事項

① 身近生活の自立支援

未自立の利用者には、食事、歯磨き、排泄等の支援を行い習慣化を促した。またある程度自立した利用者には、朝礼時お互いがチェックし合い服装、整容について意識の向上を図った。

② 健康管理

バイタルチェック等を通して利用者のその日の健康状態の把握に努めた。

月1回、看護師による健康相談を実施し利用者、家族からの健康面の相談に応じたり、アドバイスを行った。

③ 給食

希望者には、業者の弁当で対応したが、今までの業者が年末に廃業し、新たに富山市の大手業者と契約した。

④ 安心、安全な環境作り

年2回、避難訓練を実施し、火災予防に対する意識を高めた。また外部から講師を招いて交通安全教室を実施し、自転車の乗り方や交通ルールを学んだ。

施設内外の設備等の点検を定期的に行い、安全な環境に配慮するとともに、環境美化に努めた。

⑤ 家族との連携

保護者面談に今年から利用者も同席してもらいニーズの把握に努めた。個別支援計画の開示、見直し、評価を通して家族、本人のニーズに応えた。

しんきろうだより(施設たより)を作成し施設の活動内容を家庭に知らせた。

⑥ 地域交流

地域の福祉イベントに参加し、施設紹介、作品販売を行った。

滑川市社会福祉協議会と協力し、夏休みに地元の小、中学生の施設体験を行った。

つつじ苑祭などの施設行事は、各種ボランティア団体の協力を得て実施した。

平成28年度 工房よつば事業報告

1 全般的事項

働く喜びと自立への意欲につながるよう、生産活動及び自主製品の製作を通して支援を行った。

2 事業の実施状況

就労継続支援B型事業所・定員20名、現員11名

(1) 活動状況

① 生産活動

受託作業

- ・Te社のゲートカットを中心にH社の宿泊アメニティの袋詰めを継続して取り組んだ。H社より新しくタオルたたみの作業を行ったが、10月で打ち切りとなった。
- ・高速道路SAの花の植え込み作業(1回)に参加した。
- ・2銀行のカレンダー巻き(年末)を行った。
- ・上市町のM社とTi社から依頼をうけ、春季限定でよもぎの新芽採集を実施した。

② 自主製品

- ・「贅沢なよもぎ風呂」「贅沢な桃の葉風呂」のパッケージを一新し、ふるさと納税の返礼品や県内外の雑貨店舗で販売した。
- ・梅を加工し、施設内で販売した。
- ・野生型エノキタケの栽培はS農園の指導の下、敷地内で栽培。2月の劔岳雪のフェスティバルで販売した。

③ 活動の成果等

- ・ゲートカットは作業の都度、手順と折り方を確認しながら行うことにより、クレームはなかった。
- ・「贅沢なよもぎ風呂」は好評を得て、年末には在庫不足となった。

今後の目標課題

- ・主力の自主製品である「贅沢なよもぎ風呂」は在庫不足が起きないように、春から夏にかけてはよもぎの採集に力をいれる。
- ・野生型エノキタケの販売方法やルートを検討し、認知度を広げる。

3 共通的内容

(1) 身近生活

- ・通所時の身だしなみの確認、清潔に関して意識できるよう働きかけた。

(2) 健康管理

- ・毎朝の検温とバイタルチェックを継続し、健康状態の把握と管理に努めた。感染症の流行時には手洗いとうがいを励行した。

- (3) 食事・給食
 - ・給食サービスを通して、配膳や片づけ、食事のマナーや栄養について話し合う機会を設けた。
- (4) 安全な環境
 - ・作業環境の安全点検を行い、備品の配置に留意した。
 - ・消防計画のもと、四ツ葉園と連携して避難訓練(9月)を実施した。
- (5) 社会生活支援
 - ・行事前には自治会を実施し、意見を出し、話し合える時間を設けた。
 - ・遠足(7月)では金沢までの移動に新幹線を利用した。
 - ・社会生活体験(11月)では、受託作業のタオルセットを納入している施設を利用し、公共の入浴施設でのマナーを学んだ。
- (6) 地域交流
 - ・他事業所の喫茶店を利用し、昼食やおやつ外出を楽しんだ。
 - ・地域ふれあい交流会(滑川市東福寺野自然公園)に参加して他施設との交流を深めた。
- (7) 家族との連携
 - ・懇談会や行事の際、保護者の思いを聞きとり支援を行った。
- (8) 職員研修
 - ・上市町福祉教育サポーター養成研修(年12回)
 - ・北陸地区知的障害者施設関係職員研修
 - ・富山県虐待防止セミナー